

浦の星女学院投書箱！デース！

如月07se

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

シヨートギヤグSS

キャラ崩壊あり下ネタあり

第3弾です

目次

浦の星女学院投書箱！デース！

浦の星女学院投書箱！・デース！

鞠莉「さあついにマリー達番号よ！」

曜「捕まっちゃった…」

果南「いきなり呼び出されるから何かと思っただらこれか〜」

鞠莉「理事長であるワターシが直接皆の願いを叶えちゃうわよ〜」
「ゴソゴソ」

『私の体育着が盗まれました！犯人を探してください！』

果南「それは事件だね…」

鞠莉「女子高でそんなことする奴いるのかなー?」

曜「外から変態がきたって可能性もあるよね」

鞠莉「その心配はごいませーん！教師と親御さん以外の男性は浦の星女学院に張り巡らされた特殊障壁で微粒子レベルに分解されて塵一つ残りませーん」

曜「なにそのSFチックなバリア!?知らないよそんなの!」

果南「これだから金持ちは…」

曜「金持ちの次元じゃなくね!?もはや国家機密レベルのテクノロジーだよ!?!」

鞠莉「そーなると同性愛者もしくは体育着フェチが犯人ね」

果南「となると…」

曜「え?なんで私を見るの…?」

鞠莉「曜は制服好きでしょ?体育着もある意味制服だしね」

曜「いやいやいや!私がそんなことするわけ無いじゃん!この前千歌ちゃんの体育着間違えて持って帰っちゃったことはあるけど!」

果南「で、千歌の体育着はどうだった?」

曜「いい匂いでした!」

鞠莉「犯人は渡辺っつと」カキカキ

曜「あゝああああ!!!いや!この投書が千歌ちゃんのと是不一样的でしょ!」

果南「裏に普通怪獣の落書きがあるから千歌で間違いないね」
曜「……新しいの買って返します」
果南「事件解決だね。次ー」ゴソゴソ

『水ゴリラ おっぱい盛るの やめるすら 国木田心の俳句』

果南「国木田ああああ!!!盛ってねえよ!それに水ゴリラは季語じゃねえ!!!」グシャアアアアア!

鞠莉「たしかに疑惑はあるわね。私が留学から帰ってきたらもうバインバインに……いくら成長期っていつても1年ちよつとでこんなに膨らむかな?……パット?」

果南「違うわ!!!」

曜「あれ?こんな所に偶然メジャーが!」

鞠莉「nice!流星は衣装担当ね」

曜「普段は下着の上からだからね……覚悟!」

果南「いやああああああ!!!」

……

果南「もうお嫁にいけない……」グスン

曜「83:偽りなしだね」カキカキ

鞠莉「心配無いわ!その時はマリーが貰ってあげるわよ!」

果南「……夢のヒモ生活?」

曜「満更でもないのかよ!!!」

鞠莉「NEXT!」ゴソゴソ

『購買部にもつともつと商品を増やしてください』

曜「今あるのは 大人気シャイ煮パンとみかん 干物 鉛筆 そして何故か生理用品」

鞠莉「もうシャイ煮パンが人気すぎてTVの取材オフアーまできてたわよ」

果南「凄いいじゃん!これで浦女も全国的に有名になれるね!」

鞠莉「でも取材の日にカメラだけ残して取材陣が皆忽然と姿を消しちゃって……なんでかなー？」

曜「特殊障壁だよ!!!全員 塵一つ残さずこの世から消え去ったんだよ!!!」

果南「まあそれはいいとして 何があったら嬉しい？」

曜「よくねえよ!!!」

鞠莉「うーん私はアフタヌーンティー用に軽いお菓子でもあったら嬉しいかな？」

果南「まあ授業の合間とか軽くつまむのには最適だね。私はヘアゴムとかヘアピンとかあったら便利だと思うな。ヘアゴムよく切れちゃうから」

鞠莉「確かにその毛量じゃすぐひきちぎれるわね。曜は？」

曜「制服!」

果南「死ね」

曜「酷くない?!?!?」

鞠莉「マカロン!とヘアゴムと世界の渡辺監修制服を追加しますつと」カキカキ

曜「世界進出なんてしてないよ!っていうか私が作るの?!?!?」

鞠莉「当たり前デース!ちかつちの体育着を貪り食べた罰よ!」

果南「当然だね」

曜「貪って無いよ!!!ちよつと匂い嗅いだだけだよ!」

鞠莉「費用は全額曜もちデース」

曜「バイト探さないと……」

果南「さあ次だよ!」ゴソゴソ

『始まりですか?』

鞠莉「What?」

ガラガラガラ

果南「梨子!?何しに来たの!?!」

デーンデーンデーン♪テーンテーンテーン♪

デーन्दレーンデレーン♪テレーン♪テーン♪
ガラガラガラピシヤッ!

曜「せめて歌えよ!!!なんなんだよこの時間!」

鞠莉「これがホントのリリーWhiteつと」カキカキ

曜「上手いこと言ってるじゃねえええ!!!」

果南「μ's原理主義者に消されそうだね」

鞠莉「それは言わない約束デース……」

曜「はあ……次は私が引くね」ゴソゴソ

『下の毛の処理に困ってます どうしたらいいですか?』

曜「知らねえよ!自分でなんとかしろ!!」

鞠莉「私は小原グループが経営してる脱毛サロンで整えてるわよ!
!」ヌギッ

果南「見せんでいいわ!!」

曜「うわあ綺麗な金色だね」

鞠莉「ナチュラルボーンブロンドアンダーヘアデース」

曜「必殺技みたいになってる……」

果南「私は水着着る機会も多いから毎日お風呂で処理はしてるよ。
曜も水着よく着るしいつもやってるよね?」

曜「う……うん……」

果南「……怪しい……オフシーズンでサボってるの?……鞠莉!」

曜「そ……そんなことないって!」

鞠莉「OK!シャイニングスカートめくり!」バサッ!

曜「いやああああ!!」

鞠莉「アーンドパンツ下ろし!」サッ!

果南「あつ……ごめん」

曜「お嫁にいけない……」グスン

鞠莉「渡辺曜は生えてないっつと」カキカキ

曜「人のコンプレックスを回答にするなよ!!!!!!」

鞠莉「海外では結構多いわよ?」

曜「ここは日本だし私は純日本人だよ！」

果南「世界の渡辺ってことで」

曜「陰毛で世界進出してどうすんだよ！」

鞠莉「気を取り直してNEXT！」ゴソゴソ

『この前、海の家で友達に「焼きそば」を買ってきてって言ったら「焼き鯖」を買ってきました。どっかの日常系アニメみたいですね』

鞠莉「あー焼き鯖買ってったお客さんいたわね」

果南「メニユーに無いのにどうしてもって言うから私が海で採ってきたんだからね」

曜「ヨキソバだよ!!!焼きそばでも焼き鯖でもなくヨキソバだよ!!!」

鞠莉「どこにプライドもってんの……」

曜「次が最後だね」ペラッ

『日本↓ベルギー』

曜「飛行機のチケット？」

鞠莉「曜には今からベルギーのアントワープ王立芸術アカデミーに服飾留学してもらいマース」

曜「え？ちよつと待ってAqoursはどうするの!？」

果南「心配しなくてもこの次元ではライブとかやらないし時間も進まないから」

曜「メタ発言やめろよ！」

鞠莉「さあ世界の渡辺になるデース！」

曜「いやああああ!!!」

end.